



宮城教育大学教育復興支援センター

学校支援ボランティア 参加ガイド



踏みだそう!

子どもたちの笑顔のために



子どもたちの 笑顔のために

はじめに

～教員をめざす全国の 学生の皆さんへ～



東日本大震災は、幼稚園や小中学校、高等学校等の教育機関にも甚大な被害を及ぼしました。

被災地の学校では、児童・生徒についての様々な事象が明らかになっています。例えば、「学習意欲や態度、集中力、学習達成度における課題」、「避難所や仮設住宅等、家庭生活環境の変化が与える影響」、「家族を失ったり、転校を余儀なくされたりしたことによる心的ストレス」等々です。東北唯一の教員養成大学である宮城教育大学は、学校教育の根幹を揺るがしかねないこのような状況を、重大な危機感を持って見つめています。

宮城教育大学教育復興支援センターは、宮城県の教育の復興に向けた支援を中・長期的視点に立って実施していきます。それぞれの場での確かな支援が行えるよう各教育委員会や被災地の学校と連絡・調整を密に行い、本学学生・教員を派遣するとともに、宮城県内の国公立大学や全国の国立教員養成系大学・学部にも派遣依頼を行っています。2008年岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けた宮城県栗原市で、本学が毎年行っている「くりはら塾」の経験も活かしています。被災地の学校のニーズと教育支援を志す全国の皆さんを繋ぐ、それが宮城教育大学教育復興支援センターの役割です。

Q & A 教育復興支援ボランティアに関するよくある質問

Q 宮城県では教員が足りないのですか？

A 教員が足りないというより、私たちがめざすのは側面からの支援です。学習の遅れの回復等に、ボランティア的にバックアップしていきます。現場の先生方が多忙なために及ばないところがあつたら、私たちがお手伝いしたいと考えています。

Q 宮城県外から参加したいのですが、交通費や宿泊等はどうすれば良いですか。

A 支援先の学校までの交通手段や交通費については、教育復興支援センターで手配いたします。宿泊は、宮城教育大学構内の合宿施設をご利用いただけます。ささやかな施設ですが、簡単な食事くらいは作ること（自炊）ができます。食事は、大学生協も利用できますし、仙台市街へも市営バスで出られます。支援先の学校が遠方の場合には、支援先に近い地域の宿泊施設に泊っていただけます。他大学の方々と一緒に宿泊する場合があります。

Q 支援先から戻った後などに、自分の勉強をしたいのですが。

A 宮城教育大学附属図書館を利用することができます。

Q 教員をめざす学生たちがこの活動に関わる意味は何ですか。

A 授業が予定通り進まなかったり、教材が不足したりという時に、若い学生の皆さんが来て教育支援をしてくださったら、子どもたちにとっては年が近いので親しみやすく、モチベーションが上がるでしょう。学生の皆さんにとっても、生きた勉強ですから貴重な経験となるはずですよ。そして、何よりも子どもたちの元気な姿や笑顔から、皆さん自身が元気をもらうことになるでしょう。

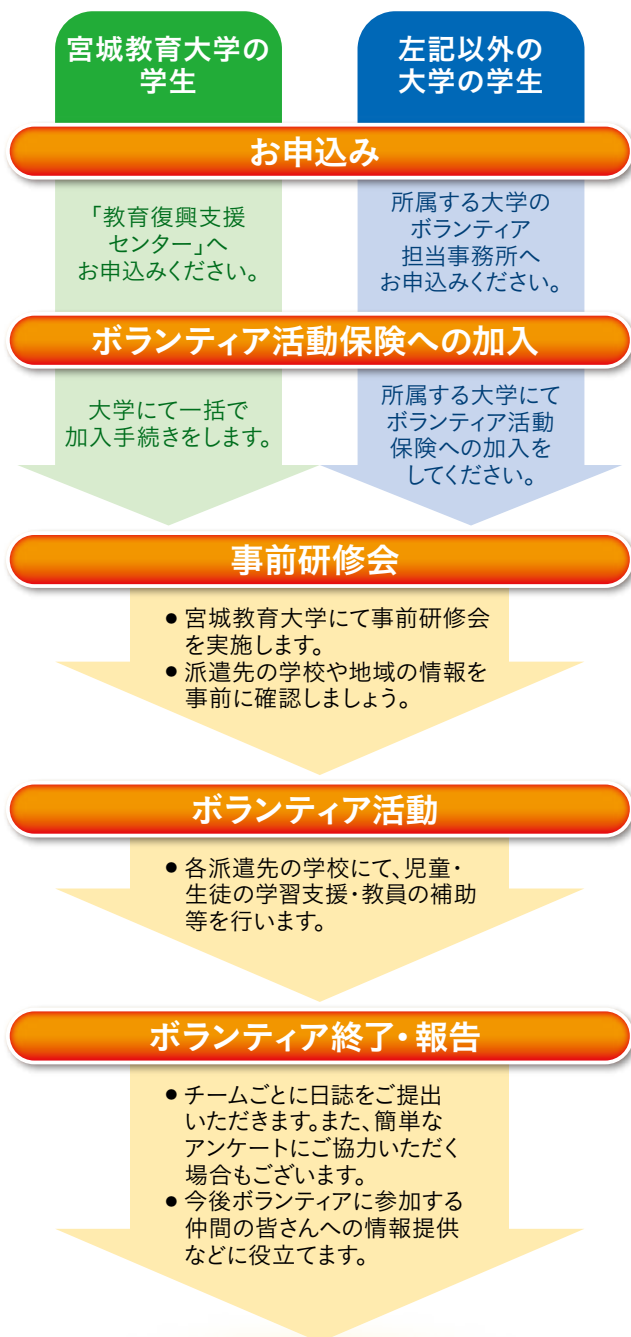


contents

- 1…学校支援ボランティアの申込みから活動終了までの流れ
活動場所と支援内容
- 2…ボランティアの心構え
- 3…インタビュー
- 4…ボランティアスタッフの一日、持ち物
- 5…施設紹介



学校支援ボランティアの 申込みから活動終了までの流れ



あたたかいご支援・ご協力
ありがとうございました！

活動場所と支援内容

1 活動地域と対象校

宮城県内および周辺地域の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等が対象校となります。実施場所は、対象校の教室のほか、地域の公共施設の場合もあります。事前研修会の際に活動場所をお知らせしますが、交通手段は配慮されていますので心配ありません。

2 支援内容

支援内容は、各学校の希望により、次のいずれかとなります（学校によって呼び名が違う場合もあります）。

いずれも大学生であれば対応できる範囲の内容で、以下の「補習学習の実施」(④)以外、事前の準備は必要ありません。

① 自学自習の支援

児童・生徒が各自学習材を持ち込んで自学自習しますので、その学習を見守るとともに、質問があった場合は対応してください。夏休み・冬休み等の課題や、国語、算数・数学、英語などの学習材、過去の入試問題を持参することが多いようです。



② プリント学習の支援

学校が用意したプリント（主に、国語、算数・数学、英語など）を使って児童・生徒が自習しますので、質問があった場合は対応してください。プリントの丸つけなどをお願いする場合があります。



③ 補習授業の補助（教員補助）

補習授業の教室で教員の補助をします。授業中に特別に支援が必要な生徒の学習支援をしたり、休み時間に児童・生徒の話し相手を務めたりします。



④ 補習学習の実施

指導案を作って、学生が教壇に立ちます。この支援をお願いする場合、実施の2週間ほど前に、単元や教科書等をご連絡します。



⑤ 通常の授業の補助（学期中の教員補助）

通常の授業期間に、学校現場に入って教員の補助をします。授業中に特別に支援が必要な生徒の学習支援をしたり、休み時間に児童・生徒の話し相手を務めたりします。



宮城県内の小学校・中学校で使用している教科書に関する情報は、「宮城県教科書供給所」のHP (<http://www.miyakyo.co.jp/>) で確認することができます。



ボランティアの心構え



ボランティア活動を始めるときにあたって

積極的に取り組もう

- お互いの顔を見合おう。
- 子どもが話をしようとしていたら聞いてあげよう。
- 子どもに表現の手段をあげよう。
(ことばだけではなく、絵、歌など)
- 段取りを調べよう。(情報収集、持ち物、資料、名札にも工夫を！)
- 体調管理をしっかり！
- 東北地方の気候にあった服装を！



ちょっと慎重に



- 子どもに過度な興奮や甘えがあるとき、すぐに同調するのではなく、落ち着いて、温かく丁寧に対応しよう。
- 「がんばれ！」という言葉にうちのめされている子どももいます。「一緒にのりこえよう」という気持ちで、さりげなく声をかけよう。
- 話題は慎重に！家族やペットを亡くしている子どももいます。

注意しよう！

- 写真やビデオ撮影は子ども(被災者)の気持ちを配慮して行うこと。一斉にカメラを向けない。
- 体調がおかしいときには、けっして無理しないこと。
- がんばりすぎない！ハリキリすぎない！
- 教師の代理ではない。あくまでボランティア。



一日の始まりにあたって

さあ、いくぞ！

- 体調はどうか？
次の項目をチェック！体温・睡眠・食欲・便通。自己過信は禁物です。
- 今日の支援内容は？
子どもたちについて、教材・教具は学習内容は、役割分担は？
- 周囲の仲間とは？
天候・体調の情報共有、声をかけあおう。



戻ってきたら…

- 熱い気持ちをクールダウン。
- 活動の振り返りをしよう。
- 明日に備えてしっかり寝るべし！



被災地から戻ったら…

- 災害現場などから戻ると、心身に様々な反応(ストレス反応)が起こることがあります。これは異常な状況下で起こる「正常な反応」です。状態がひどい場合は、専門機関で相談を。
- 被災地とそれ以外の日常のギャップに愕然とすることがあります。その認知のズレにときに怒り、悲壮感、焦燥感、倦怠感を感じる場合があります。これらも「正常な反応」です。
- ゆっくり休養する、親しい人と過ごす、落ち着いたら同じ体験をした人たちと話し、支え合う。





インタビュー

実際、現場に赴いた学生にインタビューしました。
これから現場に行く方は参考にしてみてください。

状況を理解して
慎重に。



大黒屋 純子 ■教育学部4年

毎週1回、仙台市の六郷地区へ保育支援に行っています。六郷地区は、今回の震災で津波の被害を受けました。この保育活動の中で気がついたことは次のようなことです。

家族・住居・ペットの話をするときは慎重にすること。中には、震災で家族やペットを亡くした子どもがいます。また、子どもが震災のときの話をしてきたら、しっかり聞いて受け止めてあげることが大切だと思いました。支援活動をするときには、「何をすればいいですか?」と聞くだけでなく、聞く前に状況をよく見て考えて「〇〇します」と自分から言ってみることも大事だなと思います。それと、子どもが親しみやすいように、ネームプレートなどを工夫するといいかもしれません。

学習できる現場の
雰囲気作りを。



佐藤 瑞希 ■教職大学院

学校支援ボランティアをおこなって気がついたことは次のとおりです。

まず準備段階については、赤ペン青ペンの持参は必須です。さらに子どもに説明するためのメモ用紙や紙が必要です。教科書や参考書などは説明に心配があれば持っていってもいいかもしれません。

学校現場では、子どもと気軽に話せる雰囲気作りから心がけてください。一回きりの支援もあるので、時間は短いですが自分からコミュニケーションをとるように心がけるといいと思います。子どもの集中力はすぐ切れることもあります。子どもの雑談に乗っかってしまうと学習が進まないで、きりのいいところで話を切って学習に集中させるよう努めてください。





密着!

とある学生ボランティアスタッフの1日



ボランティアの持ち物は?

宿泊を伴う場合

- ✓ 保険証
- ✓ 洗面用具等

必需品

- ✓ 筆記用具 (赤ペン・青ペンも)
- ✓ 上履き
- ✓ メモ用紙

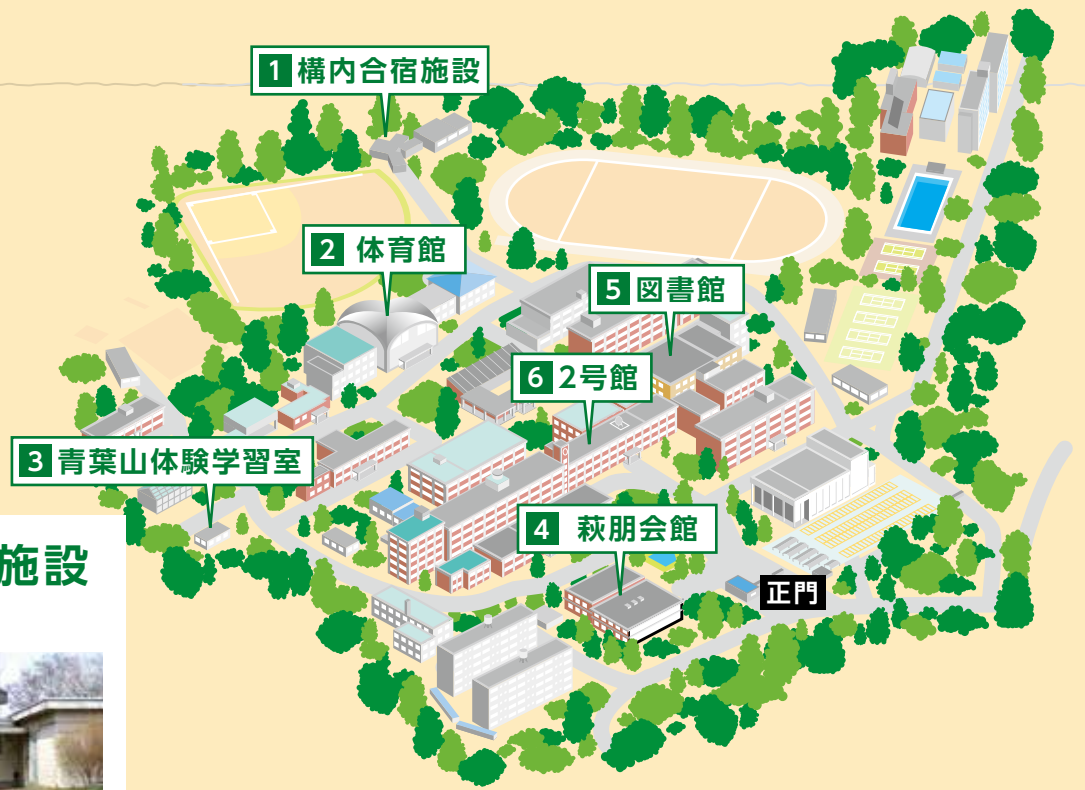
服装について

華美なものは避け、児童・生徒と接しやすい服装をご用意ください。宮城県および周辺地域の気温等を事前にご確認いただき、ボランティア期間中に体調を崩すことのないようご注意ください。

必要に応じて

- ✓ 教科書、参考書等
- ✓ 地図

施設紹介



1 構内合宿施設

和室大部屋4室



- 寝具 ● 洗濯機 ● 冷蔵庫
- コンロ ● 食器

3 青葉山体験学習室

フローリング大部屋3室



- 寝具 ● 冷蔵庫 ● コンロ ● 食器

4 萩朋会館

食事、購買



大学生協をご利用ください。

シャワー (いつでも利用できます。)

1 男 構内合宿施設内

2 体育館

- 男 1階男子シャワー室
- 女 1階女子シャワー室

5 図書館

蔵書数は34万冊。1万4千冊の児童図書や江戸期から現在までの4万冊の教科書、指導書を所蔵。



図書館



児童書コーナー

6 2号館1階 教育復興支援センター

ネットワーク環境

ゲストユーザーのID、パスワードを配付しますので、ご利用ください。



5 図書館2階マルチメディア室

6 2号館1階リフレッシュルーム

宮城県 MAP



ボランティアの申込み・問い合わせ

宮城教育大学教育復興支援センター (宮城教育大学研究・連携推進課)

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149
Tel : 022-214-3640 / 090-6854-4789
E-mail : renkei@adm.miyakyo-u.ac.jp



国立大学法人
宮城教育大学



このフレットは「水なし印刷」
により印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。